◆調査結果の考察

1. 我孫子市に転入する人（主に子育て世代）は血縁関係を重視する傾向にある

「我孫子市に転入を決めた理由」をみると、20 代以下を除いたすべての年代で「親・子ども・知人が近くにいる」の比率が最も高くなっている。世帯別にみると、夫婦と子ども世帯で最も高く、我孫子市に転入する人は、子育て世代をはじめ血縁関係を重視する傾向にあることがうかがえる。

また、「親・子ども・知人が近くにいる」と回答した人は、「転入のきっかけ」について「住宅の都合」と回答している比率が高いことも特徴である。

こうしたことから、転入促進を図るうえで、子育て世代を始めとした若い世代が我孫子市に移り住むための施策を講じるとともに、その親世代にも子どもを呼び寄せるような施策を講じていくことが求められる。

2. 子育て支援策は我孫子市のアピールポイントの１つ

転出者に「我孫子市で魅力を感じた点」をたずねたところ、「子育て支援が充実している」の比率は、一人世帯や夫婦のみ世帯では 1 割弱にとどまったのに対し、夫婦と子ども世帯では約 3 割を占めた。

一方で転入者に「我孫子市に転入を決めた理由」をたずねたところ、「子育て支援が充実している」の比率はすべての世帯で 1 割弱にとどまっている。この比率の差の背景には、市外の人に対し、市の子育て支援策のメリットが十分に伝わっていないことも推測される。

こうした傾向は、定住化促進策の検討において我孫子市のＰＲやシティセールスを考える際の手掛かりになるものと考えられ、市の子育て支援策を我孫子市のアピールポイントの 1 つとして効果的にＰＲしていくことが求められる。

3. 我孫子市の魅力は「自然環境や景色」

転出者に「我孫子市で魅力を感じた点」をたずねたところ、すべての年代で「自然環境や景色がよい」の比率が最も高く、特に男性では年代が上がるにつれて比率が高くなる傾向がみられた。

また、世帯別にみると、「自然環境や景色がよい」と回答した比率は、夫婦と子ども世帯で最も高く、6 割弱を占めている。

一方で「我孫子市に転入を決めた理由」をみると、「自然環境や景色がよい」の比率はそれほど高くなく、我孫子市に移り住んでから市内の地域資源に触れて魅力が高まっていったものと推測される。

こうしたことから、「自然環境や景色」は転出抑制としての効果が期待され、集客力のあるイベントや子育て世代を対象とするイベントなどの開催により、市民が地域資源に触れる機会を増やし、我孫子市への愛着を深めていくことがポイントであると考えられる。

また、我孫子市のアピールポイントの１つとして、市外に効果的に PR していくことも重要である。

4. 男性は女性よりも「住宅価格や家賃が手頃」と評価

「我孫子市に転入を決めた理由」をみると、男性は「住宅価格や家賃が手頃である」と回答した比率が女性よりも高く、特に男性の 30 代で比率が高くなっている。

また、「転入のきっかけ」について「住宅の都合」と回答した人が「住宅価格や家賃が手頃である」と回答した比率をみると、男性は女性よりも 20 ポイント近く上回っている。

こうしたことから、「住宅価格や家賃の手頃さ」は、マーケティング策を講じるうえでの 1 つの切り口と考えられる。

5. 市内東部では利便性に関する不満が高い

転出者に「我孫子市で不満を感じた点」をたずねたところ、「不満はなかった」は我孫子地区では半数弱、天王台地区では 4 割強を占めたのに対し、新木地区では 2 割強、布佐地区では 1 割強にとどまった。

不満を感じた点をみると、「交通の便が悪い」では我孫子地区と天王台地区が 1 割強にとどまるのに対し、布佐地区では 6 割強、新木地区では半数強と比率が高く、「買い物が不便」においても、布佐地区と新木地区で比率が高くなっている。

こうしたことから、市内全域における定住促進、特に転出抑制の側面から日常生活の利便性向上は欠かせない。商業施設の誘致や買い物環境の充実なども含めて長期的に取り組むことが求められる。

6. 震災や放射能による転出への影響はほとんどみられない

転出者に「転出の大きなきっかけ」をたずねたところ、「東日本大震災」または「放射能問題」と回答した比率は、それぞれ全体の 0.6%（8 人）にとどまり、今回のアンケート期間では、震災や放射能が直接的な転出理由となった人はほとんどいなかった。

しかしながら、転出者の一部には震災や放射能の影響を理由としている人もみられることから、引き続き、震災や放射能などに関するイメージの払拭や正確な情報提供に取り組んでいく必要がある。